

2023年度 MBA 鈴木ゼミ シラバス

- 目的① 組織行動論、組織論、経営管理論の考え方について理解をすること
- 目的② 論文作成の基本的知識（方法論や論文の考え方など）を修得すること
- 目的③ MBA 論文のリサーチプロポーザルを作成すること

演習では専門職学位論文の論文指導を行います。組織行動論、経営組織論、経営管理論、人的資源管理論、キャリア論といった組織における人に関わる領域に関するテーマを扱います。組織の中の「人」に焦点をおいたテーマを扱います。ただし人に焦点を当てるものの、常に組織（企業や職場）と個人、組織（企業や職場）の中の個人といった関係の中から検討をします。また専門職学位論文の作成を通じて、具体的な経営現象を科学的に把握、分析、検討するスキルを身につけることも目指します。

学位論文はゼミで言われたことをすれば完成するものではありません。ゼミでのコメントや議論を踏まえて、自分でマネジメントする意識を常にもってください。

ゼミの考え方

良いリサーチコミュニティ（ゼミ）から良い研究は生まれますし、良い研究を個々人が志さなければ良いリサーチコミュニティ（ゼミ）は成り立ちません。自分の研究だけに興味を持つのではなく、他のメンバーの研究にも強い興味をもってほしいと思います。他の人が研究していることや考えていることから新たな知識を得ることは少なくありません。また、良いアイデアは必ず活発な議論の場から生まれます。ゼミは共通の興味をもった人々の集団です。ぜひゼミ中、オフライン、オンラインで活発な議論をしましょう。

今期は秋から冬にかけてゼミのない期間が長くあります。ゼミとゼミの間の時間でも論文を少しずつでも進めるようにしてください。Slack や Google Document などを使って議論が途切れずできればと思っています。

事前課題について（※重要）

事前課題をこなしていれば良いと思わないようにしてください。事前課題はあくまで研究を進める思考を手助けするためのものです。受動的ではなく、それ

ぞれの事前課題フォーマットを足がかりに自分の研究を考える、進めるという姿勢で行なってください。前期の目標は MBA 論文のリサーチプロポーザルを作成することです。

必読書籍（購入して読み進めていってください）

リサーチの考え方に関する書籍

Reading1 佐藤郁哉「ビジネス・リサーチ」東洋経済新報社（2021年）

Reading2 W. C. ブース他「リサーチの技法」ソシム（2018年）

Reading3 須田敏子「マネジメント研究への招待」中央経済社（2019年）

神戸大学 MBA「プレ MBA の知的武装」中央経済社（2021年）

経営組織論・組織行動に関する書籍

鈴木竜太・服部泰宏「組織行動」有斐閣（2019年）

鈴木竜太「経営組織論」東洋経済（2018年）

そのほか参考文献（こちらはよりしっかり学びたい人用です）

【研究方法や考え方をしっかりと理解したい人】

浦上昌則・脇田貴文「心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方」東京書籍（2008年）

佐藤健二「現代社会学ライブラリー18 論文の書き方」弘文堂（2014年）

M. アルベッソン・J. サンドバーグ「面白くて刺激的な論文のためのリサーチクエスションの作り方と育て方」（2023年）

青嶋矢一編著「質の高い研究論文の書き方」白桃書房

【より特定の分野について知りたい人（これ以外にもあります）】

船越多枝「インクルージョン・マネジメント」白桃書房（2021年）

高尾義明・森永雄太編著「ジョブ・クラフティング」白桃書房（2023年）

金井壽宏「働くひとのためのキャリア・デザイン」PHP 新書（2002年）

鈴木竜太他編「1からのキャリア・マネジメント」碩学社（2023年）

佐藤博樹編著 シリーズダイバーシティ経営 中央経済社

組織学会編「組織論レビュー I・II・III・IV」など

スケジュール

各回の内容と事前課題です。事前課題をこなしていただくだけでなく、セッションとセッションの間の時間についても（テーマ P などで忙しいとは思いますが）少しずつでも進めるようにしてください。

また今年は過去の MBA 論文執筆者をお呼びして、ご自身の MBA 論文について概説してもらう予定でいます。研究のプロセスや MBA 論文ならではの注意点など研究内容とともに参考にするようにしてください。

【Day 1 (Session 1-5: 9/16) イントロダクションとポスターセッション】

最初のセッションでは、自己紹介をかねて研究テーマを話してもらいます。その後、研究の始め方について議論をします。午後はポスターセッションへの参加となります。

【事前課題】

リーディング課題を読んだ上で、Appendix#1 のフォーマットに沿って研究テーマを説明できるようにまとめてきてください。当日の話す時間は 5 分以内です。コンパクトに。（A4 1 枚程度 で用意 *口頭で説明することも含め、資料は簡潔に作成すること）

【リーディング課題】

Reading1 佐藤郁哉「ビジネス・リサーチ」の Ch.1・2

Reading2 ウェイン・C・ブース他「リサーチの技法」のパート I

Day1 から Day2 の間

この時期は研究動機や大まかな研究テーマからよりフォーカスを絞っていく時期になります。またその際にどういう切り口が有効かということを考えていきます。Reading1-3 を再び読み、そのステップを理解するとともに、経営組織論や組織行動論のテキストなどから切り口のアイデアを考えて Day2 の課題に取り組んでください。

また自社の課題や問題を取り上げる場合には、その問題や課題について実際にどのようなになっているのか、資料やデータ、できればインタビューなど行って、その課題や問題を改めて理解（何が起きているのか）をするようにしてください。

【Day 2 (Session 6-10: 10/7)】 研究テーマの洗練

2回目のセッションでは、よりフォーカスを絞った研究テーマ（リサーチクエスション）について考えます。問いは研究において最も大事なパーツの1つです。良い問いができれば研究の半分はクリアです。このセッションでは、進捗について簡単に話してもらった後、研究テーマから問いへと進めるための問いの考え方と文献や理論の読み方、考え方について話します。

【ゲスト】 穂積慎一さん（予定）（MBA 鈴木ゼミ 2期）

【事前課題】

事前 Reading における問題のフレーミングを参考に、自身の問い（あるいは研究テーマ）を今一度考えてみてください。

【リーディング課題】

Reading2 ウェイン・C・ブース他「リサーチの技法」ソシム（2018年）のパートII

事前 Reading トーマス・ウェデル＝ウェデルスポルグ「そもそも解決すべきは本当にその問題なのか」HBR, 2018, 2月号.（こちらはBEEF経由で配布します）

Day2 から Day3 の間

この時期は、研究テーマから研究課題へと絞っていく段階です。その中で研究計画を徐々に立てていきます。今期はこの間がおよそ2ヶ月半あります。次の2つの点を進めながら考えていってください。

- ② 研究テーマの対象の情報を集め、新たな情報から考える（パイロット調査）
- ② 切り口として有効なコンセプトやフレームワークを引き続き探す（文献渉猟）

【Day 3 (Session 11-15: 12/23)】 研究計画の策定と研究方法

各自この頃には研究テーマが決まってほしいと考えています。その上で、実際の研究が2024年度からスタートすると考えてください。2023年度最後の2回はリサーチプロポーザルを完成させることを目指します。これまでのセッションを振り返りながら、リサーチプロポーザルを作成してください。

このセッションの後半では、方法論についてレクチャーをします。

【ゲスト】 大田結さん（予定）（MBA 鈴木ゼミ 3期）

【事前課題】

Appendix#3 をもとにリサーチプロポーザルを作成してください。このプロポーザルをもとに議論をしますので、適当に書かず、進捗を含めしっかりと考えた上で書くようにしてください。特に「2 参考にする理論や概念」のところを充実してくるようにはしてください。ただし充実させるだけに終わらず、それを踏まえて今一度研究テーマと課題を考えるようにしてください。

【リーディング課題】

Reading1 佐藤郁哉「ビジネス・リサーチ」の Ch.3-5

Reading3 須田敏子「マネジメント研究への招待」

【Day 4 (Session 16-20: 2/10)】

今年度最後のゼミでは、リサーチプロポーザルの完成を目指します。ここでリサーチプロポーザルが完成するのが今年度の目標となります。Day3 での議論を元に、リサーチプロポーザルの完成版を目指してください。このゼミ以降はこのリサーチプロポーザルをもとに研究を進めていくことになります。

【事前課題】

Appendix#2 のフォーマットをもとにしてリサーチプロポーザルを作成、ブラッシュアップしてください。

【リーディング課題】

Reading1 佐藤郁哉「ビジネス・リサーチ」の Ch.6-8